

北中かわら版

「北中かわら版」は地域医療連携のための広報誌です

北陸中央病院理念

「人間愛に基づいた医療を通じて
社会に貢献します。」

基本方針

1. 安全には細心の注意を払い、安心の医療に努めます。
2. 心のふれ合いを大切にし、人権を尊重します。
3. 情熱と生き甲斐をもち、常に前進を図ります。
4. 小矢部市の中核病院として急性期と地域医療の共存を果たします。
5. 公立学校共済組合員や地域の人々の健康管理事業に力を注ぎます。
6. 健全な経営に努めます。

●発行は、2, 3, 5, 6, 8, 9, 11, 12月です。「あいの風ほぐりく」が発行される月はお休みをいただきます。

●次回は平成29年8月発行を予定しています。

地域医療連携センターに新メンバー着任！



後列左より：竹島 係員、窪田 主任看護師、高山 看護師、平林 看護師、中島 看護師
前列左より：前田 主任社会福祉士、藤堂 センター長、渡辺 副センター長

日頃より大切な患者さんをご紹介いただきまして、誠にありがとうございます。

地域医療連携センターでは、藤堂センター長の下、渡辺副センター長、窪田主任看護師、前田主任社会福祉士、高山看護師、竹島係員の少数精鋭で業務に勤しんでいます。

窪田主任看護師と高山看護師は入院調整・退院支援を担当、前田主任社会福祉士は退院支援と相談業務を担当、竹島係員は事務全般を担当しています。

従来のメンバーに加え、この4月に平林看護師が、5月に中島看護師が当センターに着任いたしました。

平林看護師は毎朝正面受付で患者さんをお迎えし、円滑に受診できるようお手伝いをしたり、いただいた紹介状のお返事を担当医師に優しく督促したり、「となみ野ネット」関連の実務を行ったりしています。笑顔もキューティクルもまぶしい頼れるベテラン看護師ですので、何でもおたずね下さい。

中島看護師は退院支援看護師として、主に整形外科の入院患者さんを担当しています。病棟経験も豊富でスタッフの信頼も厚い熱意あふれる看護師で、かねてより地域医療に高い関心があり、当センターに配属されたことをとても喜んでしています。どんどん連携の輪の中に入ってくると思いますので、よろしく願いいたします。

開業医の先生方とよりいっそう細やかに連携を行い、患者さんの安心と満足に寄与できるよう努めてまいりますので、今後ともどうぞよろしく願いいたします。

薬学生の長期実務実習を実施しています

北陸中央病院では、6年制になった薬学生の長期実務実習を実施しています。

薬学部が6年制になったのは医療技術の高度化、医薬分業の進展などに伴う医薬品の安全使用といった社会的要請に応え、医療の担い手として、質の高い薬剤師が求められているためです。それに伴い、薬局、病院での11週間の参加型の実務実習が義務づけられました。大学の正式なカリキュラムとして「実務実習モデルコアカリキュラム」に従って、全学生が統一した内容を学ぶことになったのです。

本院で受け入れている実習生数は、2011～2016年までで11名でした。その内訳は北陸大学が10名、富山大学が1名でした。2017年は北陸大学から2名、富山大学から2名の学生実習を行います。

2017年	2016年	2015年	2014年	2012年	2011年
4名	2名	4名	1名	1名	3名

この実習を行うためには、日本薬剤師研修センターが認定する「認定実務実習指導薬剤師」が施設に最低1名いることが条件です。講習会やワークショップへの参加を経て、認定されることとなります。北陸中央病院では、このワークショップの支援も行い、平成25年度に改定された薬学教育モデル・コアカリキュラムである「学習成果基盤型教育, outcome-based education」に対応した実習を実施しています。「安全で有効な薬物療法の提案とそれを実施・評価できる能力の修得」、および「チーム医療・地域医療への参画能力の修得」に新たな力点が置かれる内容を実施しています。

大変なのはコーチングです。評価の仕方を実習生の行動が変わるため

- 1.気づかせる（ここまでできたね）
- 2.情報提供（これもできると良いね）
- 3.評価（よくやったね）
- 4.愛情（一緒にがんばろうね）

等に留意することが求められます。

この点については充分ではないかもしれませんが、努めて実施するようにしています。

実習は

- 1.薬局実習11週間→病院実習11週間
- 2.病院実習11週間→薬局実習11週間

の場合もあります。今後の予定としては、平成29年度までは、1年間に3期の実習を行ってきたところですが、平成31年度からは1年間に4期の実習を行う等、変化も出てきています。



北陸中央病院での薬学生の実習に興味のある方は、薬剤科 守内までご連絡ください。

画像診断ミニレクチャー 第2回

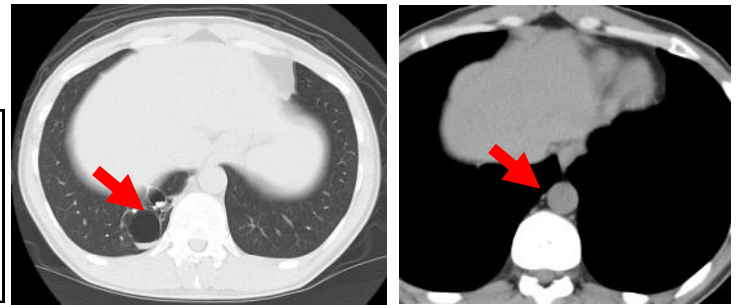
北陸中央病院 放射線科医長 永吉 俊朗

肺分画症(pulmonary sequestration)

正常の気管支と交通を持たない肺の一部分に、体循環から血液が供給される病態です。感染源となりやすく、臨床的にも繰り返す肺炎症状で発見されることが多いとされています。発生部位は両下葉の後肺底区S10にほぼ限局しています。感染が無い場合は、傍脊椎領域の辺縁平滑な腫瘤として描出されます。炎症を合併すると、液面の形成を伴う多房性嚢胞を呈します。確定診断は下行大動脈から分岐する栄養血管の同定によりなされます。胸部単純X線で下肺野内側に結節様あるいは多発集簇するプラ様構造を見た場合に考慮すべき疾患です。

症 例： 30代、男性

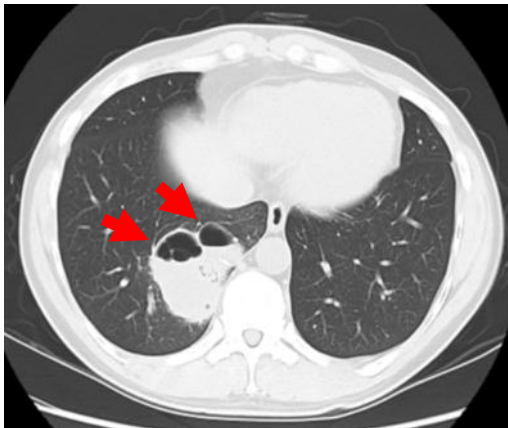
診 察： 2013.03
主 訴： 発熱 38.4℃、腹痛、下痢
経 過： 肺分画症疑いで6ヶ月後のCT follow予定であったが来院されず。



2013.03 胸部単純X線CT

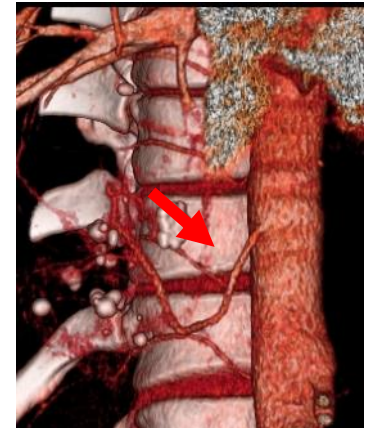
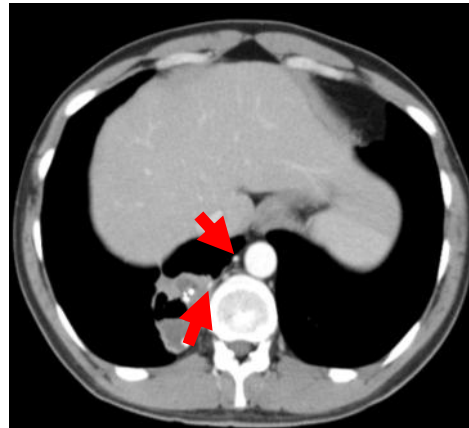
診 察： 2016.05
主 訴： 発熱 右背部鈍痛を自覚
経 過： 近医受診、砺波総合病院へ紹介、その後手術目的のため当院へ紹介される。

• 術前単純CT

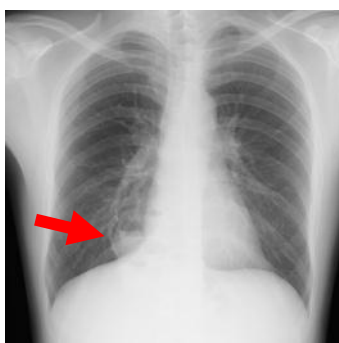


• 液面の形成を伴う多房性嚢胞が見られる

• 術前造影CT



• 下行大動脈から分岐する栄養血管が見られる



• 術前



• 術直後



• 2017.04



• 2017.04

北中かわら版

発行日:平成29年6月27日

編集:広報委員会



公立学校共済組合
北陸中央病院

〒932-8503

富山県小矢部市野寺123

電話 0766(67)1150

FAX 0766(68)2716

ホームページも
ご覧ください

[http://](http://www.kouritu.go.jp/hospital/hokuriku/)

www.kouritu.go.jp/hospital/hokuriku/

または

北陸中央病院で

検索してください



感染症発生動向

平成29年 第24週 6月12日(月)~6月18日(日)

《 全数報告の感染症 》

二類感染症 結核 2件 (①80歳代、女性 ②80歳代、男性)

三類感染症 細菌性赤痢 1件 (50歳代、女性、*S.dysenteriae*, A群)

四類感染症 レジオネラ症 1件 (60歳代、男性、肺炎型)

五類感染症 アメーバ赤痢 2件 (①第23週診断分:60歳代、男性 ②30歳代、男性)

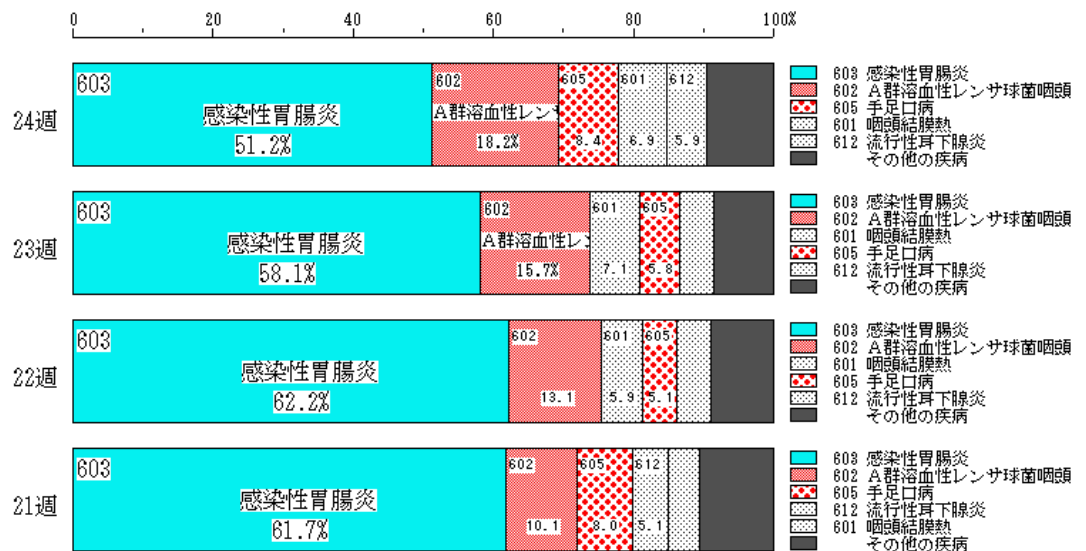
《 定点報告の感染症 》

今週の県内上位6疾患

順位	疾病名	定点あたりの数		
		今週	先週	増減
1位	感染性胃腸炎	6.90	9.31	↓
2位	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.45	2.52	↓
3位	手足口病	1.14	0.93	↑
4位	咽頭結膜熱	0.93	1.14	↓
5位	流行性角結膜炎	0.86	0.29	↑
6位	流行性耳下腺炎	0.79	0.76	↑

この内容は以下のホームページでさらに詳しくご覧いただけます
アドレス <http://www.pref.toyama.jp/branches/1279/kansen/>

《 富山全県の疾病別報告数の割合 》



北中RUN部がんばりました!

前号でお知らせしました「いっちゃんリレーマラソン2017」ですが、今年は409チームの参加があり、当院「北中RUN部」から参加したロングディスタンス愛好会チームが149位、事務部長チームが304位、病院長チームが379位という結果でした。100位以内の目標は達成できませんでしたが、メンバー全員、楽しみながら全力を尽くしてがんばりました。



次は、9月3日(日)に開催される「第4回おやべ4時間リレーラン」を目標に活動していきます!